



【企画展示】没後40年

未発表写真で綴る

# 植村直己・ わが青春の山岳部

2024年(令和6年)

10月8日火 - 2月2日日

10:00 ~ 18:00

(展示室への入室は17:30まで)

【休館日】 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し翌火曜日休館)

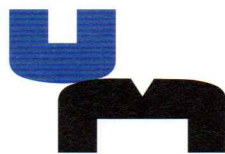
年末年始(12月29日~1月6日)

\*10月14日(スポーツの日)、11月4日(振替休日)、

1月13日(成人の日)は開館し翌日休館

2025年(令和7年)

入場  
無料



植村冒険館

昭和35年入部の同期5人と。  
大学2年生になり晴れて山岳部の正部員となった。  
(昭和36年(1961年)6月/後列左端が植村・当時20歳)

公益財団法人植村記念財団 植村冒険館  
〒173-0003 東京都板橋区加賀一丁目10番5号  
植村記念加賀スポーツセンター内  
TEL 03-6912-4703 FAX 03-6912-4705  
[www.uemura-museum-tokyo.jp](http://www.uemura-museum-tokyo.jp)



## 【企画展示】没後40年

### 未発表写真で綴る

# 植村直己・わが青春の山岳部

昭和35年(1960年)4月、明治大学農学部に入学生した植村直己は、学生生活を充実させようと山岳部に入部します。しかし登山未経験だったこともあり、まもなく行われた白馬岳の新人合宿で40名ほどの新入部員の中で最初に疲れて動けなくなってしまいました。このときの悔しさを克服するためにひそかにトレーニングを重ねて体力をつけ、以降、学生時代は山岳部の活動に夢中になりました。大学卒業後は海外の山へと向かい、その後の冒険へとつながっていきます。

今回の展示は、これまで存在も知られていなかった未発表の写真をご紹介します。植村さんは大学2年生で20歳を過ぎたばかり、あどけなさが残る若者です。「どんぐり」と呼ばれ、仲間とともに山登りに打ち込む植村さんの姿と山岳部の活動をご覧ください。

### 主な展示品

明治大学山岳部(大学2年生の正部員合宿等)の写真 約50枚(キャビネ判)  
山岳部時代に使用したザック、登山靴、サブリーダー推薦状など(いずれも植村直己冒険館(豊岡市)所蔵)

スライドショー「大画面で見るわが青春の山岳部」約12分



## うへむら なおみ 植村直己

昭和16年(1941年)兵庫県生まれ。明治大学入学と同時に山岳部に入り本格的な登山を始める。昭和39年(1964年)から約4年にわたって外国を放浪。モンブラン、キリマンジャロ、アコンカグアに登頂。昭和45年(1970年)日本山岳会エベレスト登山隊に参加し、日本人として初めてエベレストに登頂。続いてマッキンリー(現・デナリ)に登り、世界初の五大最高峰登頂者となる。

昭和47年(1972年)単身でグリーンランド最北の村に入り、約10ヶ月間暮らして犬ぞりの扱い方などを覚える。昭和51年(1976年)春には北極圏1万2000kmの単独犬ぞり走破を達成。昭和53年(1978年)世界初の北極点単独到達、グリーンランド縦断を成功させた。昭和57年(1982年)犬ぞりによる南極最高峰ビンソン・マシフへの往復と単独登頂を計画するが断念。昭和59年(1984年)2月世界初の厳冬期マッキンリー単独登頂を果たすが下山中に消息を絶つ。4月国民栄誉賞受賞。



### ザックの荷物

下級生は大型のザックのほかに鍋やテントのポールを背負わされる(3番目が植村)



### 夏山合宿

2年生の夏山合宿は約3週間かけて北アルプス全山を縦走した(右端が植村)



### 雪渓とテント

穂高連峰・濁沢の雪渓にテントを張る。出発前の準備運動



### 剎岳

別山乗越付近から見た東面。植村の主な活動舞台だった

### 〈写真提供＝平野真市さん〉



### 平野真市さん

平野真市さんは昭和32年(1957年)に明治大学山岳部に入部。植村さんが1年生の時の4年生にあたります。卒業後も先鋭的な登山を続け、昭和40年(1965年)の明治大学ゴジュンバ・カン遠征と昭和45年(1970年)の日本山岳会エベレスト登山隊に植村さんとともに参加した、頼れる先輩でした。

植村冒険館が平野さんのご遺族から寄贈を受けた写真を調査したところ、昭和36年(1961年)の前半の山岳部の活動を記録した写真が含まれていました。平野さんはOB1年目、植村さんは大学2年生の時の写真です。63年の歳月を経て初めての公開となります。

## 関連イベント／講演会「わが青春の山岳部」

明治大学山岳部の同期である廣江研さんと1年後輩の節田重節さんに、初公開の写真をご覧いただきながら思い出を語っていただきます。山岳部の活動内容や現場での植村さんの言動など、ともに青春時代を過ごした仲間だからこそその視点でより踏み込んだ植村直己の人物像に迫ります。

- とき＝令和6年12月8日(日) 14時00分～15時30分(開場13時30分)
- 出演＝廣江研(明治大学山岳部・同期)、節田重節(明治大学山岳部・1年後輩)
- 会場＝板橋区立植村記念加賀スポーツセンター地下1階第一武道場
- 定員＝50名／入場無料【要申込み】

\*お申し込み方法等詳細は、11月9日(土)から植村冒険館のホームページでご案内します

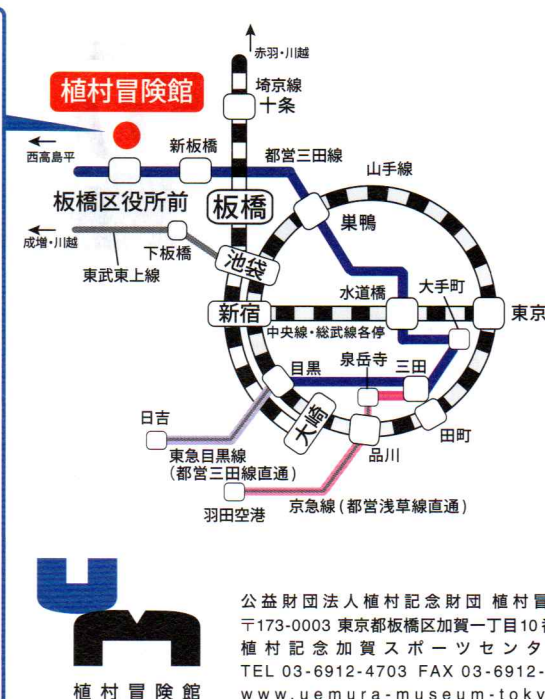
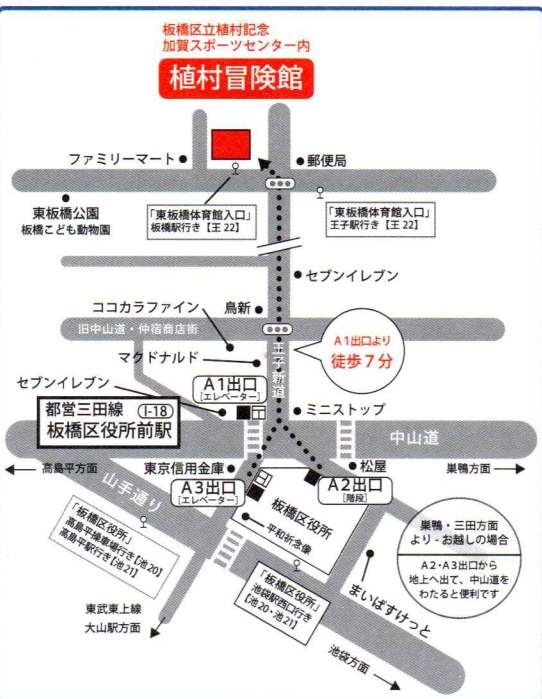
## 施設案内 植村冒険館

植村冒険館は令和3年12月に加賀スポーツセンター(旧・東板橋体育館)内に移転し、リニューアルオープンしました。植村直己さんが暮らしていた仲宿商店街にほど近いここ加賀で、新しい展示を行っています。

### 3階 常設展示

館内に入ると、大画面の「イントロダクションシアター」がみなさまをお迎えします。床面にも広がる大迫力の映像で、植村さんの代表的な冒険である「アマゾン川イカダ下り」「エベレスト」「北極点単独行」の3編をご紹介します(各5分)。常設展示は、『今も「ここ」に植村直己がいるかのような感覚』へ誘うテーマで構成しています。世界を駆け抜けた冒険家・植村直己の足跡をご覧ください。

このほか、施設全体で植村さんに触れていただけるよう、エレベーターホールの大形写真をはじめ、ウエムラチャレンジベース(1階)、パネル展示(2階・プールギャラリー)、言葉の回廊(階段)に関連の展示があります。



### ご利用案内

- 開館時間：10:00～18:00  
(展示室への入館は17:30まで)
- 休館日：毎週月曜日  
(祝日の場合は開館し翌日休館・年末年始)
- 入館料：無料

### 交通のご案内

- 都営地下鉄三田線 板橋区役所前駅下車 A1出口より徒歩7分
- JR埼京線 板橋駅西口よりバス(国際興業バス・王22系統/王子駅行き) 東板橋体育館入口停留所下車 徒歩1分 [参考]
- JR埼京線 板橋駅下車 徒歩15分
- 東武東上線 下板橋駅下車 徒歩15分
- 都営地下鉄三田線 新板橋駅下車 徒歩12分

### お車でお越しの方へ

加賀スポーツセンターの駐車場をご利用いただけます。【28台/20分100円】冒険館をご利用の場合は最初の40分が無料になります。お帰りの際に1階総合受付で駐車券をご提示の上、認証を受けてください。  
\*予約はできません。



公益財団法人植村記念財団 植村冒険館  
〒173-0003 東京都板橋区加賀一丁目10番5号  
植村記念加賀スポーツセンター内  
TEL 03-6912-4703 FAX 03-6912-4705  
www.uemura-museum-tokyo.jp